



“NOAA”のビルディング。NBS(米国標準局)等との雑居ビル、背景の山はRockyであるがロッキー山脈ではない。前景は「愚妻」、「豚児」。

待論文はボエージャーによる木星観測とかX線の観測とかいったタイムリーなものが多かった。私自身は前述の高速水素雲の話をしたが、質問者が自分のやっていることのコメントやら何やらを長々とやるものだからどこまでがコメントでどこからが質問なのかさっぱり分らず閉口した。たしかに米国の研究者は話に聞いていたとうりあらゆる機会をとらえてバッチャリ自分を売り込むことを忘れていない。もう一つこれは日本天文学会でも採用してはどうかと思われたのがポスターセッションであった。これは要するに決められた時間に発表内容のビラを貼り出し、発表者も傍に居て質問に答えるというものである。もちろんアブストラクトも集録に入っている。最大の利点は観測データー等を前にしてじっくり当事者と話ができるということにある。それにスライドにしにくくい生のデーター等を見せることもできる。よく細かい数字がピッシリ並んだ表のスライドなどを見せる人があるが、そういう講演は正にポスターセッション向きである。天文学会理事会でも御検討いただきたい。さて AAS とは一寸毛色の変った学会である太平洋天文学会(ASP)のミーティングにもついであって出席した。この学会はいわゆるプロの天文研究者の他に日本天文学会の一般会員にあたるアマチュア天文家が多く入会している。天文月報に相当する「Mercury」という雑誌を出しているところなどもそっくりである。しかしながらミーティングのやり方は全然ちがう。日本天文学会の場合はいわゆるテクニカルペーパーの発表がすべてであるのに対し ASP ではアマチュアも独自のセッションを持っている他一般向けの講演も多く行われる。私の参加した本年6月のミーティングでは天文教育や天体写真についてのワークショップが設けられていた。一般向け講演では H. Arp によるクエーサーと活動度の高いギャラクシーとの関係の話が夜間に行われ、最終日を一日つぶして B. Bok 等による講演が行われた。参加者は中学生位の子供から学校の先生、それに研究者も加わって仲々盛況であり話

も大変面白かった。熱心なアマチュアはテクニカルペーパーのセッションにも出席していた。AAS の場合でもそうであったが家族連れで参加している人も多く、学会をエンジョイする、といった空気が感じられた。ひるがえって我が日本天文学会の現状に想いを馳せると、一般会員の数は特別会員の約3倍もあり、学会の財政面での大きな支えとなっているにもかかわらず、年2度の学会の折一般会員に対する配慮が何らなされていないはどうしたことであろう。恐らく最大の理由は現行のシングルセッションの形態をつづける限り時間的余裕が無いということであろうか。そうであるならばセッションのパラレル化や前述のポスターセッションの導入を計るべきではあるまいか。既に実力あるアマチュアは日本天文学会に期待することなく独自の道を歩みつつある。しかし日本天文学会が一般会員を受入れている限り一般会員に対するサービスはもととなされてしまうべきだと思うし、又そうすることが日本の天文学における底辺拡大に役立つであろうことは云うまでもない。天文学会員の方々の御一考を御願いしたいところである。

お知らせ

IAU Symposium No. 93 on Fundamental Problems in the Theory of Stellar Evolution

主 催 京都大学基礎物理研究所

共催・後援・協賛 International Astronomical Union (IAU), 日本天文学会, 日本学術振興会, 山田科学振興財団

期 日 1980年7月22日(火)～25日(金)

場 所 京都市左京区 京大会館

内 容 星間ガスからの星の誕生、前主系列段階における進化と連星系の形成、太陽系の起源、近接連星系における質量交換とその進化への影響、コンパクト星への質量降着とそれに伴う諸現象、星の進化における星の自転および磁場の効果、超新星爆発と中性子星の形成

参加者 招待者のみ、招待状の必要な人は、至急下記まで連絡して下さい。

連絡先 科学組織委員会 (Joint Chairman), 〒153 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学教養学部 宇宙地球科学教室 杉本大一郎 電話 03-467-1171 内線452; Professor R. J. Tayler, Astronomy Centre, Physics Building, University of Sussex, Falmer Brighton BN1 9QH, U.K.; Telex 877159 UNISEX G.

または 国内組織委員会 (Chairman), 〒606 京都市左京区北白川追分町 京都大学基礎物理学研究所 佐藤文隆 電話 075-751-2111 内線7008